

“Functional anatomyとVesaliusに見るルネサンス期の局所解剖”

“The Legacy of Andrea Vesalius: Functional and topographical anatomy in Renaissance era”

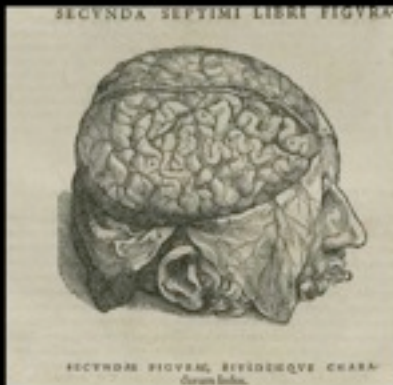
医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 脳神経外科・田中 美千裕

今日、画像診断装置やワークステーションの処理能力の急速な発達に伴い、脳血管内治療を行う上で必要とされる高精細な画像情報が3次元的に可視化されるようにさえなった。しかしどんなに綺麗な画像が得られても、それに対する解剖学的な意味付け、各々の脈管の走行、そして機能的な側面からの理解がなければ安全な脳血管内手術は遂行できない。

15~17世紀に興隆したルネサンス期の科学者や解剖学者は、精神の源泉が脳にあること、物を立体視する原理が両眼と脳の働きによるものであることなどに気づき始めていた。特に1543年、27歳の若さでDe humani corporis fabrica(人体の構造について)を出版したAndrea Vesaliusは、自ら解剖刀を握ることにより、それまでの医学界を支配していた古代ギリシアのガレノスの学説を覆す新事実を次々と発見していった。この演題ではこの天才解剖学者Vesaliusの業績に焦点を当て、ルネサンス期に端を発するmedical imagingの歴史と変遷について紹介し、日常診療で手軽に得られるようになった現代の画像情報の価値を解剖学的な立場から考察していきたい。

Key words: Medical imaging, Renaissance, Andrea Vesalius, functional vascular anatomy, 3D imaging

The 1st Niche Neuro Angiology Conference in Osaka
Functional anatomyとVesaliusに見る
ルネサンス期の局所解剖
“The Legacy of Andrea Vesalius”
Functional and topographical anatomy in Renaissance era



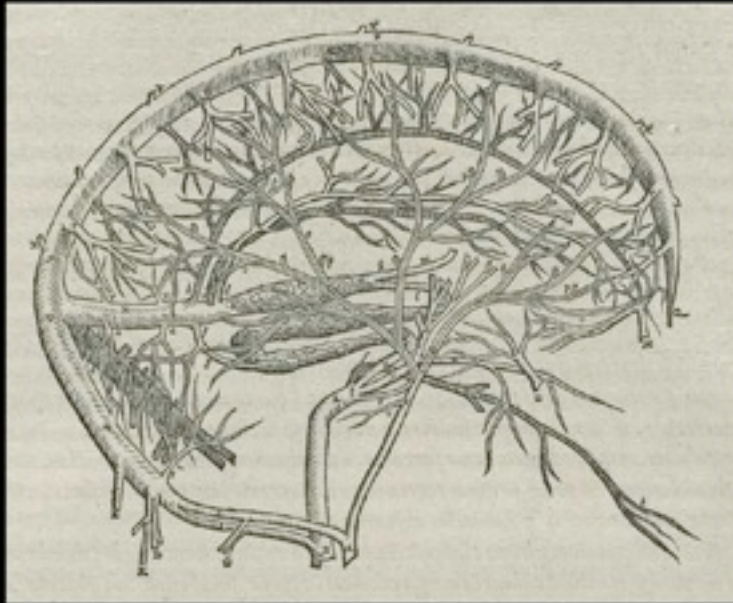
医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院 脳神経外科
 田中 美千裕



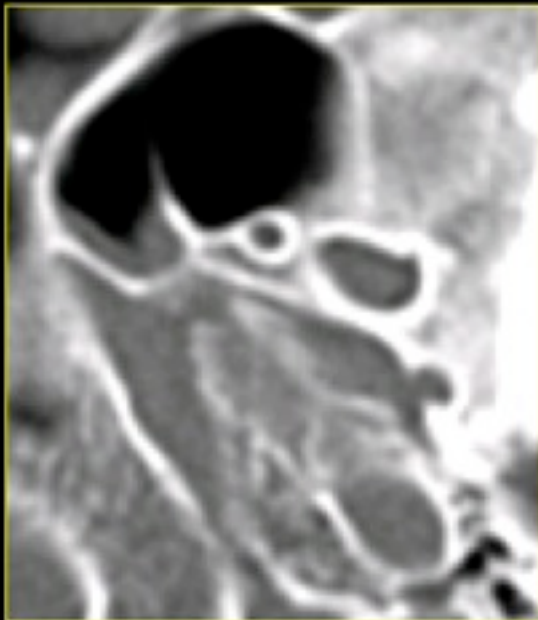
De humani corporis Fabrica
 Vesalius (1543年)



杉田玄白らによる解体新書(1773年)
 →訳本の原点Anatomische Tabellenで
 使われた図譜も原典はVesaliusの
 Fabricaであったことがうかがえる。
 Vesaliusの業績がまだ鎖国していた日本
 の近代医学の礎に多大な影響を与えてい
 ることが分かる。



Vesaliusは脳の静脈系の機能を胎盤の絨毛機能と近いもの
と考察していたふしがある。
動脈と静脈の明確な分類と機能的な意味づけはWilliam Harveyによる循
環器論を待たなければならないが、Vesaliusの精緻な解剖図譜が後世の
医学者に与えた影響は計り知れない。



Foramen Ovaleの内側(rotundumの後方)に
Foramen Vesalius が見える。